

(2) 郷土資料の収集

県内出版物は、国・県・市町村から刊行される、いわゆる地方行政資料、民間から出される短歌、俳句、詩集等があるが、最近の傾向として、中央の出版社から刊行される郷土関係資料も、非常に多くなりつつある。

本年度に収集した県内出版物は 1,715冊で、昨年度よりやや多くなっている。このなかには、「東和町史」「埴町史」「伊南村近代百年史」「鹿島郷土史」「大倉部落史」等の町村史のほか、「会津人物文庫目録」「福島大学付属小学校百年史」「福島県警察史」「福島県医師会史」等の労作も含んでいる。また、「福島県民百科」や「福島県大百科事典」等、県民の話題を呼んだもの、「山川忠義画集」「青津清喜画集」等、県内の印刷技術の水準の高さを示すものなどがある。更に、本年度からは「(財)福島県文化振興基金」で助成された図書が、当館および分館に寄贈されることになり、郷土資料の充実に大きく寄与している。

2 図書館資料の整備

(1) 蔵書の検討

蔵書の検討については、館内に設けられている取書委員会において、慎重に検討を重ねているが、より適切な蔵書構成を図るため、専門家による蔵書診断を、年次計画ですすめている。本年度は文学部門について実施したが、委員は次のとおりである。

菅野 宏	福島大学教授	日本文学
長尾 光之	福島大学助教授	中国文学
青木 義孝	福島大学教授	英米文学
斎藤 寛	福島大学助教授	ドイツ文学
佐野 敦至	福島大学講師	フランス文学
新美 治一	福島大学助教授	ロシア文学

(2) 蔵書目録の刊行

所蔵資料の全体的な活用を図るため、毎年編さんされているものであるが、本年度は、54年度に受入れた 3,639冊について、増加図書目録として刊行、市町村教育委員会、公民館、市町村立図書館等に配布した。

第3節 館内奉仕

1 利用状況

館内での利用の中心は、館外個人貸出しであるが、登録者数を見ると、前年度比で 0.7%と、わずかながら減少した。(表2)

表2 館外個人貸出登録者数 (昭和55.4~56.3)

区分	男	女	計	構成比
勤め人	578	279	857	23.4
自家営業	115	18	133	3.7
主婦			444	12.1
学生	大学	490	488	978
	高校	180	405	585

区分	男	女	計	構成比	
学生	中学	155	189	344	54.5
	各種	21	68	89	
	計	846	1,150	1,996	
無職	135	96	231	6.3	
計	1,674	1,987	3,661	100	
児童			1,951	総数に対して34.8	
合計			5,612		

表3 館外個人貸出利用者数 (昭和55.4~56.3)

区分	人員	構成比
勤め人	5,157人	16.8人
自家営業	870	2.8
主婦	3,370	11.0
無職	1,637	5.3
学生・生徒	6,018	19.6
家族券	291	0.9
児童	13,417	43.6
計	30,760	100

開館日数 271日  
一日平均利用者数 114人

53年度をピークとして、年々わずかながら減少しつつあるが、これを数字のうえで見ると、大学、中学生の減少によるものであることが分かる。しかし、一般成人はむしろ増加の傾向にある。

貸出冊数については、逆に前年度比で12.6%の増加を見た。(表4)

表4 館外個人貸出利用図書冊数 (昭和55.4~56.3)

分類別	冊数	構成比
総記	986冊	1.2%
哲学宗教	1,515	1.8
歴史地理	4,108	4.9
社会科学	5,385	6.4
自然科学	2,028	2.4
工学工業	1,997	2.4
産業	846	1.1
芸術	2,980	3.5
語学	377	0.4
文学	24,259	28.8
児童	39,679	47.1
計	84,160	100

開館日数 271日  
一日平均貸出冊数 311冊